

未来の松山を担う子どもを育成

次代の松山や日本を担うリーダーを育成しようと、7月27日から29日まで「未来を拓け！松山子どもリーダーズ」事業を中島で開催しました。

市内小中学校の児童会・生徒会の代表126人が参加し、28日には『東日本大震災から学ぶ』をテーマに、野志市長を交えて話し合いました。

グループ討議で市長が震災時に羽田空港のロビーで寝た体験談などを話すと、子どもたちは熱心に耳を傾けていま



自分の考えを発表する子どもたち

参加者の声

わたしたちが笑顔でいることや支援物資を送ることで、東北の皆さんを元気づけられると思います。震災について考えた自分たちのアイデアが、これから生かされたいなと思いました。



中川 聖羅さん (和氣小6年)

した。また子どもたちは意見や感想などを積極的に発表したほか、被災地の子どもたちを元気づけようというわに応援メッセージを書いて、陸前高田市の高田小学校へ送りました。

お問い合わせは、(教)学校
教育課 ☎9486591・FAX 934
1815へ

9/18(日) イワクラサミット in 松山

坂の上の雲フィールドミュージアム活動支援事業

「蘇る瀬戸内の巨石文化と太陽信仰」をテーマに、巨石文化のシンポジウムを開催します。

教授の基調講演や、巨石群の紹介、夕日の鑑賞会など
【定員】80人(先着順)
【料金】前売り1000円(当日1500円)

【日時】9月18日(日)13～18時
【場所】高浜公民館(梅津寺町)
【内容】尾道大学・稲田全示



白石の鼻・三ツ石を貫通する夕日

【申し込み】松山・白石の鼻
巨石群調査委員会ホームページ
http://haku1414.web.fc2.com/へ

お問い合わせは、イワクラサミット in 松山事務局
(篠澤) ☎0800-29981・6768(18～21時)、坂の上の雲まちづくりチーム
☎94869955・FAX 9341804へ



第13回 三津浜小学校

児童数 男126人・女124人・計250人
(平成23年8月1日現在)

西は瀬戸内海、東を宮前川に挟まれた、歴史と伝統のある三津浜小学校区。3年生は、三津っ子じまん発見隊を結成し、「三津浜の大切なものを調べよう」というテーマで探検に出掛けました。

三津っ子じまん発見隊

探検したのは、三津の渡し船や港、フェリー乗り場、厳島神社、三津浜商店街、魚市場、三津浜図書館、三津浜公民館、定秀寺。いずれも三津浜に昔からあり、人々に親しまれているところです。



厳島神社



三津の渡し

ど、普段気付かなかった自慢をたくさん見つけました。また地域の人は、子どもたちを渡し船に乗せてくれたり、旗の作り方を教えてくれたりするなど、とても温かく探検に協力してくれました。

探検を通して、三津浜には古くから大切に残されているものがたくさんあることや、地域の人が三津浜をとっても大事にしていることなどをしっかりと感じることができました。そして、これからは自分たちも、古くから残されているものや地域にしかないものを受け継ぎ、大切に守っていきたいという思いを持ちました。

松山っ子の声

三津のわたし船が、500年も前からあるなんてびっくりしました。次は、家族とつしよに乗りたいです。(3年女子)
三津浜には古いものがたくさんあることを知りました。ぼくたちも三津浜の町を大切に守っていききたいです。(3年男子)

DISCOVER 魅力を発見 里島

中島地域の南西端にある二神島のおき情報を紹介するよ。



しまぼう



二神叙情

行知つ「」！ 里島 ② (二神島)

二神島は、昭和47年に発行された世界的地理雑誌『ナショナル・ジオグラフィックマガジン5月号』に26ページにわたって紹介されたんだ。そして、この雑誌の内容を集約したものが、アメリカの高校の世界

ノスタルジックな世界

地理の教科書にも「近代化されず日本古来の美しさを多く残したパラダイスの島」として紹介されたんだ。今でも細かい路地や集落に古き良き島のたえずまいを見ることができ、県指定の天然記念物「ビヤクシン」の自生地もあるんだよ。今回は、7月のウォーキングで見つけた、とっておきのビューポイントを二つ紹介するよ。

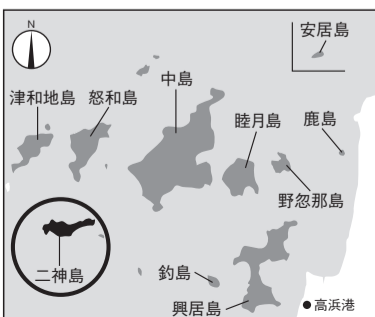
一つ目は、山の中腹で二神小学校が昭和28年まであった場所なんだ。そこに残る石垣と眼下の集落や漁港が風景によく溶け込んでいて、島ならではの絶景を見ることができるとよ。昭和の時代を思わせるよ。ノスタルジックな世界に引き込まれ、随分と心が癒やされるんだ。

5層の大サポテン

二つ目は、民家にある、高さ5層近くもある大サポテン



大サポテン



二神島